

けいすい

いのちを輝かせて生きる

Live your life to the fullest

6月入り、雨の日が多くなってきました。教育界では“魔の6月”と言われることがあります。統計によると年間の中でいじめの認知件数が一番多い月、そして学校での怪我の発生件数が一番多いのが6月だそうです。子どもたちの様子をこれまで以上に注意深く観ていきます。

さて、先週は“北っ子の心を見つめる教育週間”ということでたくさんの地域の方、保護者の方に子どもたちの様子を観ていただきました。

取組のスタートとして、全校集会を行いました。全校集会では、宮越由貴奈さんの詩「命」を紹介しました。この詩は宮越さんが亡くなる4か月前に書いた詩で、「電池が切れるまで～子ども病院からのメッセージ」という本に掲載されていたものです。今から20年ほど前にテレビドラマ化されたのでご存じの方もいるかもしれません。“命はとても大切に、人間が生きるための電池みたいだ”と、宮越さんは言っています。この詩は、“命は取りかえられない大切なもの、私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう”という言葉で結ばれており、宮越さんの生きることへの強い思いが感じられる詩です。子どもたちはどんな思いをもったでしょうか。

日頃の生活の中で“いのち”を感じることは少ないかもしれません。しかし、わたしたちの身近なところには“いのち”が溢れています。お話を聞いたり、本を読んだりすると身近にある“いのち”を感じるができます。目には見えない“いのち”ですが、感じよう、意識しようとするればその人のなりの“いのちの姿”がはっきりとするように思います。教育週間は終わりますが、せわしなく進む日常の中で、時々立ち止まって“いのちの輝き”についてこれからも考えさせていきたいと思えます。

こえていく！学力向上編

Exceeding previous academic abilities

基礎学力の定着は本校喫緊の課題です。今年度の学力向上の取組の中心となる「のびのびタイム」が先週から動き出しました。

この「のびのびタイム」は昨年度、地域の方の協力を得ながら希望者を対象として実施し、音読・視写・基礎計算に取り組み、子どもたちの基礎学力定着につなげることができました。今年度はさらに対象を広げ、全員で基礎学力の向上に努めることとしました。

子どもたちの日頃の学習の様子をみると当該学年で身に付ける内容以前に教科書を読む、漢字を書く、足し算や引き算・かけ算等の四則計算で躓いている児童がかなりの数います。そこでもう一度基礎を見直し、しっかりと基礎学力を定着する必要があると考えます。

先週行ったのびのびタイムでは、まず子どもたちにこの時間のねらいと内容を紹介した後、自分の実力をためすための問題に取り組みました。この結果をもとに次回から、低学年・中学年・高学年のそれぞれのコースに分かれ、コース別の学習に入ります。

全職員で一人でも多くの児童にできた喜び・わかった実感をもたせるように励みます。

教育週間 来校 ありがとうございます。

Thank you for attending the parent-teacher conference and school visit day.
今年度の教育週間には述べ110名の方に来校していただきました。



PTA 総務部の方に見守りをしていただきました。PTA 会長さんは毎日見守りをしていただきました。



地区の民生員の方も多数来ていただき、様子を見ていただきました。



授業参観懇談会にも多くの保護者の方に参加していただきました。子どもたちの学びの様子はどうだったでしょうか？



多くの方に来校していただいたおかげで、教育週間のねらいである“みんなで子どもたちの心をつつめる”ことが十分にできた1週間となりました。